

日本海におけるメダイ *Hyperoglyphe japonica* の標識放流

小林 知吉

(山口県外海水産試験場)*

目 的

メダイ *Hyperoglyphe japonica* はイボダイ科 *Centrolophidae* の1属1種の魚である(中坊1993)。本種は本邦では太平洋側に多く産し、重要な漁獲対象魚種となっている(1都3県水産試験場底魚資源調査研究グループ1975)。一方、日本海側では分布は認められてはいたが、これまで本種を対象とした漁業、いわゆる「めだい漁」が成り立つほどの資源量は確認されていなかった。しかし、本県では1993年(平成5年)頃から本種の来遊が認められ、翌年の1994年には長門市仙崎漁協市場への水揚げが顕著となった。その後、年を追うごとに水揚げ量は急増し、1997年における同市場の水揚げ量と水揚げ金額の概算はそれぞれ200トン、1億5千万円となった。この現象は本県にとどまらず、石川県、新潟県、秋田県など、日本海沿岸の各県でも認められている。

このような状況から、1995年以来、本種の資源生態調査を実施してきたが、本年はその一環として、本種の移動・回遊経路を解明することを目的として、天然魚の標識放流を実施した。

調査方法

メダイは稚魚期～若魚期には流れ藻に付随した生活を過ごしていることが知られており(内田・庄島 1958)、本県海域においても、1996年に実施した本種の稚魚分布調査で確認されている。そこで、以下の方法によりメダイを採集し、放流に供した。

(採集)

採集年月日：1997年5月23日～6月14日

採集海域：大津郡油谷町川尻岬から阿武郡阿武町宇田郷に至る海域(図1)

採集漁具：もじゃこ旋網により流れ藻ごと採集(漁業者に依頼)

採集魚の収容：採集10時間後に、水試の4m×4m×5mの小割網に収容

(放流)

放流年月日：1997年5月27日～6月16日の間に随時放流

放流海域：萩市相島沖から須佐町沖に至る海域(図1)

放流尾数：2,970尾

放流魚の尾叉長：85～286mm（平均160mm）

標識の種類：スパゲッティ型タグ（赤色）に「ヤマグチ」と「四桁連番」を印字

標識装着作業：小割網収容後約16時間経過して、装着作業にとりかかった。標識は背鰭中央基部に装着した。

放流手法：調査船第2くろしおにより、前述の海域において流れ藻を探索、確認後、流れ藻の傍に放流した。

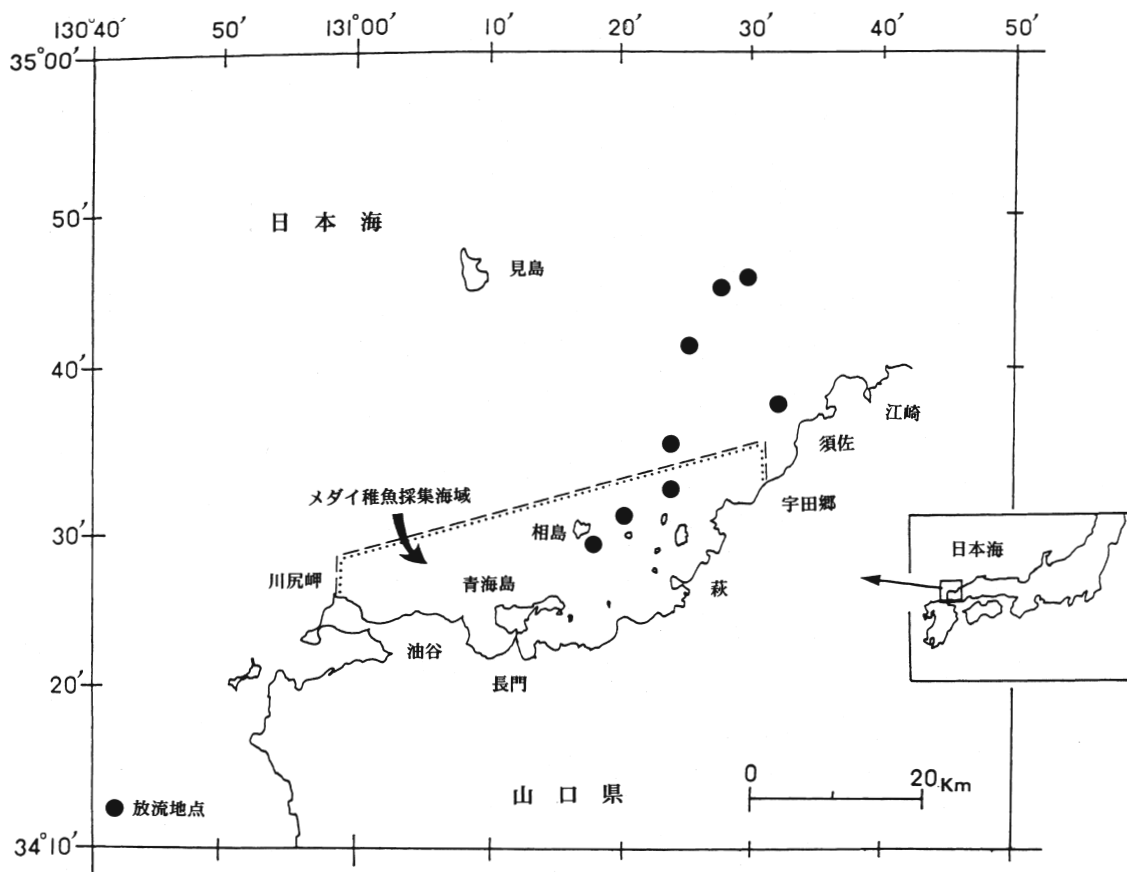


図1 標識放流用天然メダイ稚魚の採集および放流海域

結果および考察

1998年2月9日現在の総再捕尾数は17尾であった。この内、県内再捕尾数は11尾で、放流後4日目以内に放流地点から概ね5 km以内の範囲において、もじゃこ旋網により再捕された。

一方、県外で再捕された6尾の再捕状況は表1に示すとおりであった。これらの再捕水深は、全長213mm（尾叉長換算195mm）の魚では表層であったが、尾叉長380mm以上の魚は100～200mであった。次に、放流魚の成長を放流後145日以上経過した再捕魚5尾でみると、放流時の尾叉長が146～193mmであったものが、再捕時には380～421mmと、230mm前後の成長をみせた。

表1 遠隔地でのメダイ再捕状況

No.	放流 年月日	再捕 年月日	放流後の 経過日数	再捕場所	再捕 水深 (m)	再捕漁法	放流時 尾叉長 (mm)	再捕時 尾叉長 (mm)
1	16 June 1997	29 June 1997	13	島根県隠岐西ノ島浦郷 高崎鼻沖	表層	浮曳網 (モジャコ採捕用)	186	213 TL
2	12 June	4 Nov.	145	新潟県佐渡島弾崎 北7マイル	100 前後	刺網	160	400 TL
3	12 June	17 Nov.	158	秋田県男鹿半島沖 向瀬	100 ~ 200	延縄	164	398
4	12 June	29 Nov.	170	青森県久六島地先	不明	延縄	152	380
5	12 June	9 Jan 1998	211	秋田県男鹿半島沖 向瀬	100 ~ 200	延縄	146	約 400
6	9 June	9 Feb.	246	新潟県両津市平松沖	100 尋	刺網	193	421

標識魚の再捕地点は日数の経過とともに北上していき、放流後170日目の青森県久六島が最北の再捕地であった。その後、再捕地点は南下し、211日目は秋田県男鹿半島沖、246日目には新潟県佐渡島地先で再捕された (図2, 図3)。

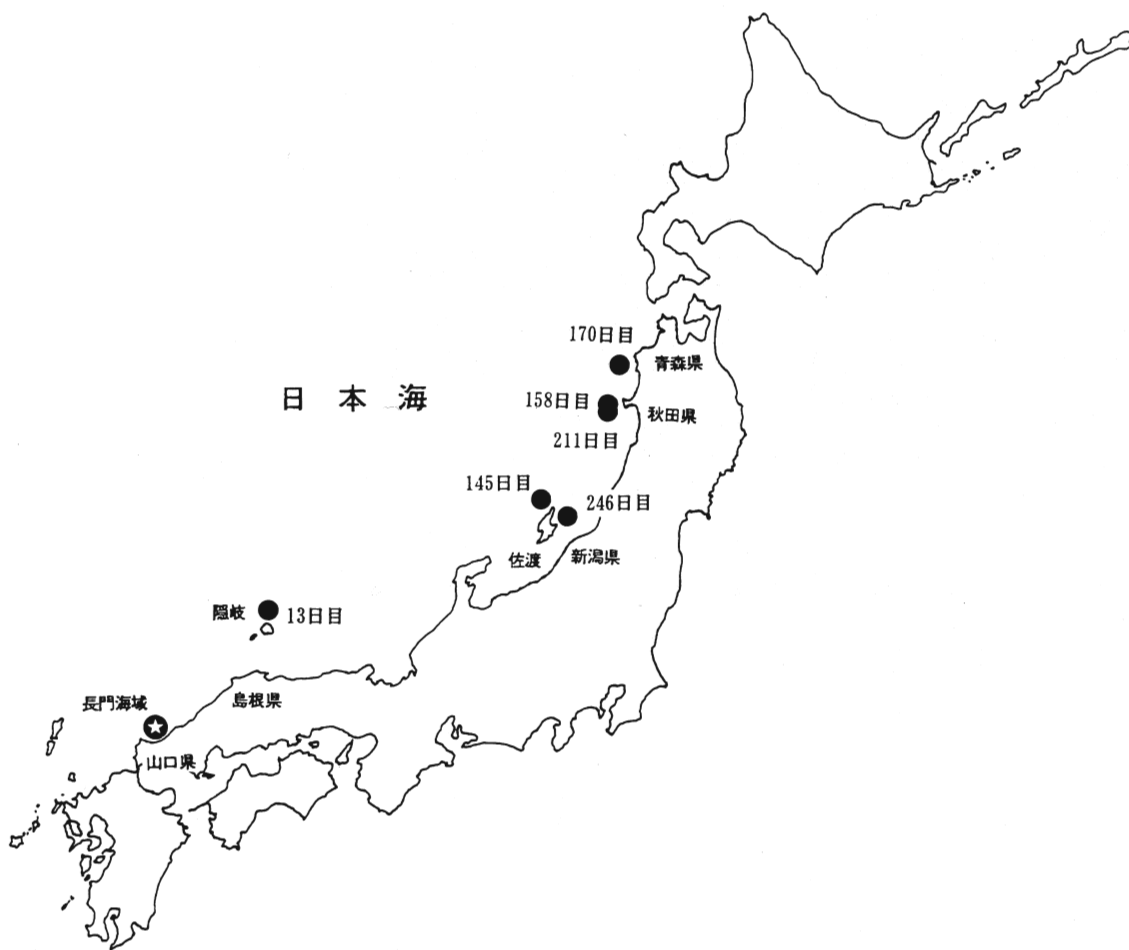


図2 標識放流メダイの遠隔海域における再捕地点

★放流海域, ●再捕地点

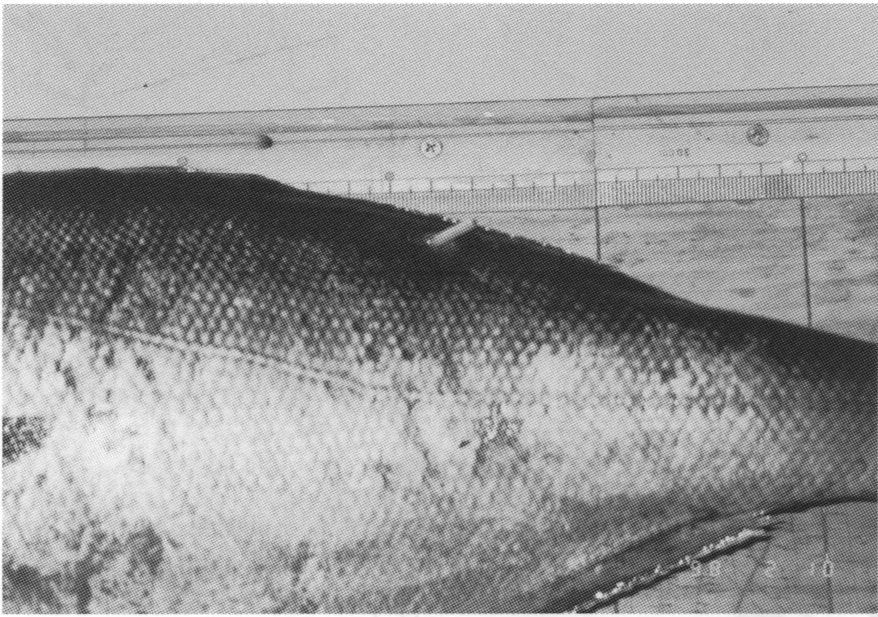
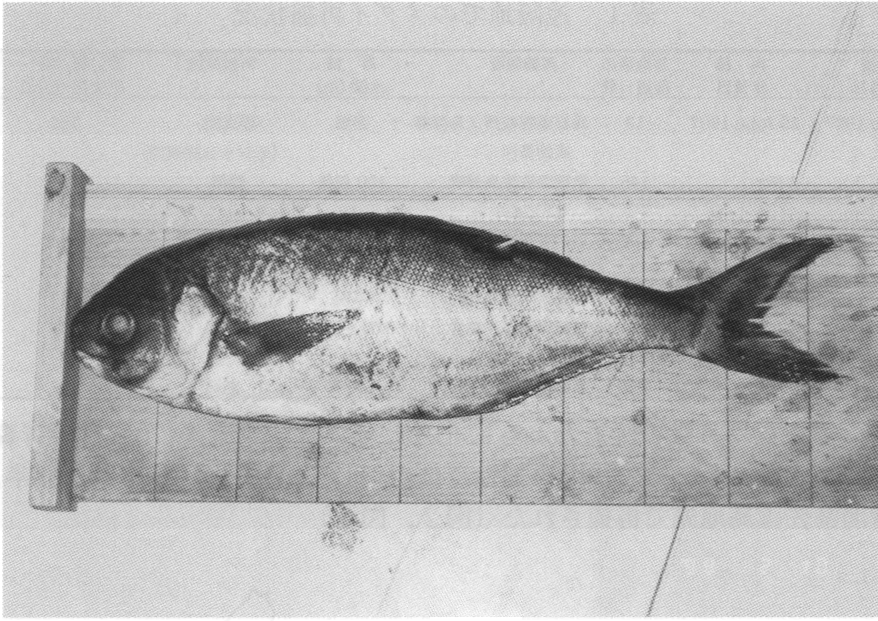


図3 放流後246日目に再捕されたメダイ

上段：再捕魚全身（尾叉長421mm，体重1.76kg）

下段：同魚の標識装着部位

再捕年月日：1998年2月9日（放流年月日：1997年6月9日）

再捕場所：新潟県両津市平松沖 水深約150m

再捕漁法：刺網

（写真撮影者：新潟県佐渡水産事務所 佐藤 修氏，1998年2月10日撮影）

以上のことから、メダイの移動・回遊経路は次のように想定される。

- 1) 稚魚は流れ藻に付随して、5～6月頃に日本海西部海域に来遊し、成長に伴って生息水深を表層から100～200mに移しつつ、北上する。
- 2) 秋期～初冬期には東北沿岸域に達する。
- 3) 冬期には南下を開始し、春期には日本海西部海域に回帰する。

謝 辞

放流用メダイ稚魚の採捕に当たっては、仙崎漁業協同組合員岩本孝始氏に多大の協力を頂いた。厚く御礼申し上げます。

秋田県水産振興センター山田潤一氏、新潟県水産海洋研究所板野英彬氏、同県佐渡水産事務所佐藤 修氏、島根県栽培漁業センター森脇晋平氏には再捕状況報告、再捕魚の写真およびメダイ漁獲情報等の提供を頂いた。ここに深謝する。

文 献

- 中坊徹次（1993）イボダイ科. pp.1151. 中坊徹次編 日本産魚類検索-全種の同定-, 東海大学出版会, 東京.
- 1都3県水産試験場底魚資源調査研究グループ（1975）キンメダイその他底魚類の資源生態. 水産研究叢書, **28**, 72-88, 日本水産資源保護協会.
- 内田恵太郎・庄島洋一（1958）流れ藻に関する研究・流れ藻に伴う稚仔魚-I. 日水誌, **24**, 411-415.
- 小林知吉（1998）山口県の日本海沿岸におけるメダイ *Hyperoglyphe japonica* の稚魚および未成魚. 山口県外海水産試験場研究報告, **27**, 39-42.